平成 19 年 事業報告書

＜平成 19 年 7 月 17 日～平成 19 年 12 月 31 日＞

～ 事 業 趣 旨 ～

■ 空き缶回収と言えばアルミ缶だけ、という偏った認識。
（スチール缶はお金にならないの？）

■ 市民は、スチール缶を資源リサイクル目的で集める機会が少ないため、潜在意識の中でゴミとして出している。

■ スチール缶を「ゴミ」として扱っている大人の姿を子供たちは見て育っている。

↓

子供さんたちに『空き缶資源リサイクル』の模範を示すため、
缶の種類を選ばない取り組みを推進

↓

小学校等の活動から地域全体へ・・・。
資源リサイクルの地域コミュニティ形成をお手伝いし、
地球へ思いやりのある人を育成することを目的とします。

～理事長コメント～

関係者の皆様のおかげで缶収集の成果はでています。昨年の７月からの活動としては飛躍的な進行と存じます。

北九州市の環境局、教育委員会と環境学習、啓蒙へお手伝いをさせていただいています。今年も昨年に倍する活動を行います。

皆様のご協力をお願い申し上げます。

理事長　河野（かわの）　捷紀（かつのり）

■ 平成 19 年の活動概要

1. 空き缶の募缶活動
2. 資源リサイクルに関する提供活動
   （1）環境学習用教材(冊子)の提供
   （2）空き缶集積用ボックスの提供
3. 資源リサイクルに関する広報及び啓発活動
   （1）機関紙『空き缶通信』の発行
   （2）講演活動
   （3）環境イベント参加による広報・啓発活動
   （4）こども劇団チケットの提供

NPO法人 空き缶基金

特定非営利活動法人　空き缶基金

1. 空き缶の募缶活動

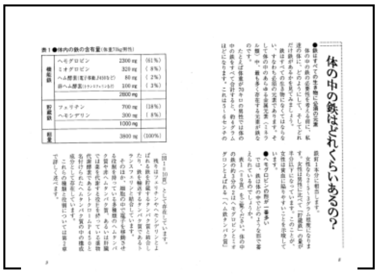
趣旨に賛同いただいている団体は、12 月末時点にて 203 団体。うち、募缶提供は 83 団体。

NPO法人設立後の空き缶回収量 83,086kg、うち基金へ積み立てられる対象となった空き缶の重量は、36,068kg。

2. 資源リサイクルに関する提供活動

（1）環境学習用教材（冊子）の購入・提供（500 冊）

資源の大切さを学んでいただくために、書籍配布による啓蒙活動を行ないました。鉄と人との関わりや体の中の鉄の役割が紹介されており、鉄不足が招く運動や学習能力の低下など、成長期である小学校の生徒さんには特に重要なことが書かれています。団体回収しているスチール缶から、鉄資源に対する理解が深まることを目的に選定しました。


体の中の鉄はどれくらいあるの？

（2）空き缶集積用ボックスの提供

空き缶回収の実施しやすい環境を提供する手段として、ボックスの提供を行ないました。

小学校などに空き缶集積用ボックスを置き、回収を手助けしてあげることで、環境委員会を中心とした自主的な児童活動に発展しています。法人設立後、資源リサイクルに取組む学校、地域団体へ 14 個設置。（下記のとおり）

- 8/31 昴学園総合専門学校（2 個）
- 9/11 永犬丸西まちづくり協議会（1 個）
- 9/13 松ヶ枝幼稚園（1 個）
- 9/18 永犬丸まちづくり協議会（1 個）
- 10/17 北九州市立中原小学校（1 個）
- 10/18 北九州市立八幡小学校（1 個）
- 10/19 北九州市立中井小学校（1 個）
- 11/7 八枝まちづくり協議会（1 個）
- 11/13 葛原第一長寿会（5 個）

（設置例；中原小学校）

（設置例；八幡小学校）

3. 資源リサイクルに関する広報および啓発活動

（1）機関紙『空き缶通信』の発行（毎月 250 部）

本活動に賛同いただいている団体に対し、団体同士の情報交流を目的とした『空き缶通信』を発行しました。毎月１回発行し、行政・地域まちづくり協議会・市内小学校などに配布し、空き缶回収の取組みなどの近況情報や登録団体さんの活動情報などを掲載しています。

情報・広報担当者が団体先へ取材を行ない、作成・発行をしています。また、法人会員様のホームページを利用し、インターネット上でも情報を発信しています。

特定非営利活動法人 空き缶基金

空き缶通信 例

空き缶通信

2007年 8月号

発行所 KARS TEL 093(752)5033

Vol.43

KARS（カーズ）の深津です。

平成19年7月17日。

かねてより設立の準備を進めておりました

『NPO法人 空き缶基金』の登記を完了する運びとなりました。

当法人は、空き缶基金活動で得られた資金（積立金）を活用する上で、提供先選定での不公平感をなくすために、すべての情報を公開する第3者機関としての役割を担っています。

小学生の環境教育や授業に役立つ情報・教材等の提供を行ない、より多くの子供たちに、資源リサイクルの意識を高めていただくことを目的としています。

これからも暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

新たな参加団体

足原幼稚園（小倉北区）

NGO ピースポート

以上　累計：190団体

先月の空き缶回収量

13250キログラム

ご協力ありがとうございました！

先月のベスト3

赤崎小学校（若松区）

筒井まちづくり協議会（八幡西区）

本城団地長寿会（八幡西区）

青葉地区まちづくり協議会（若松区）

新興住宅地である青葉地区は近くに山や海といった自然があります。美しい地域を保つために毎月2回地区のゴミ拾い運動を行なっています。また、子ども会では廃品回収を行ない、地域の家庭から出る資源ゴミを回収しています。

青葉台中央公園

市民センター館内で遊ぶ子供さん達

青葉地区では毎年夏に「青葉台フェスティバル」を開催。開催場所は市民センター裏の青葉台中央公園で、近隣住民や夏休みに帰省した人達も訪れ、毎年1万人以上の人で賑わいます。

穴生地区まちづくり協議会（八幡西区）

約5000世帯が暮らす穴生地区。毎月1回開かれる「あそびの学校」は、近隣の小学校に通う1年生から6年生まで約200人の子供さん達が参加します。8月は190名が参加して、近くの川で日帰りキャンプを行ないました。

「あそびの学校」そうめん流しの準備

「あそびの学校」そうめん流しの風景

穴生地区ではボランティアの方達の協力も多く、伝統芸能である「鷹見楽太鼓」を伝え、『あそびの学校』やその他行事を積極的に手伝い、支えてくれています。

(2)講演活動

出前講演（リサイクルに関する授業）や一般講演を活動計画に盛り込んでいます。

平成 19 年は、10 月 26 日、北九州市市民サポートセンターで行なわれた NPO 活動発表会にて講演を行いました。

発表内容は、当法人発足に至る経緯や、空き缶回収を通じて小学生と年長者との交流が生まれたという小学生の作文発表を中心に報告。また、空き缶回収活動を行なう市内の小学校が文部科学大臣奨励賞を受賞した事を紹介。

(3)環境イベント参加による広報活動

チラシやリサイクルフローのパネル展示、再資源化された製品の展示による環境啓発活動を 6 イベントで行ないました。また、こどもさんには、楽しみながら資源リサイクルについて触れていただくため、様々な催し（缶を使ったゲーム、クイズラリーなど）を盛り込んだ出展を行いました。

【参加イベント】

■ 平成 19 年 8 月 4～5 日　　わっしょい百万祭り in 北九州市役所広場

※ 空き缶入れを設置し、一般の方々の募缶による空き缶基金への協力を募った。

■ 平成 19 年 8 月 4～13 日　　地球にやさしい北九州ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ in 海峡ﾄﾞﾗﾏｼｯﾌﾟ

■ 平成 19 年 9 月 24 日　　　西港エコフェスタ in 西港自動車学校
■ 平成 19 年 10 月 17～19 日　エコテクノ 2007 in 西日本総合展示場

■ 平成 19 年 10 月 20～21 日　エコライフステージ 2007 in 北九州市役所広場
※ エコステージ報告特集(毎日新聞 2007 年 12 月発行)にて当法人が掲載されました。

■ 平成 19 年 11 月 2～4 日　　起業祭 2007 in 大谷体育館前広場

（ぬり絵の展示風景）

（スチール缶を使ったゲーム）

（スチール缶ドラム演奏）

（親子で塗り絵作業）

(4)こども劇団チケットの提供

NPO法人空き缶基金の活動を幅広く知っていただくために、会員数 35 名のこども劇団へチケット 20 枚購入という形で協賛しました。ここで得たチケットを、比較的、児童の出入りが多い市民センターへ空き缶通信と同封して提供しました。

特定非営利活動法人　空き缶基金